

3日間
集中

基礎からわかる

主催
東京都

女性のための金融セミナー

金融機関の選び方 ～実際に口座開設をしてみる～

本資料に記載されているデータ等は信頼に足り、かつ正確であると判断した情報に基づき作成されたものではありませんが、その正確性、確実性を保証するものではありません。また、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。当該情報の利用による投資等の損益はすべてお客さまに帰属します。

金融機関の種類

	主な取扱商品
銀行	預金、ローン、投資信託、生命保険など
証券会社	株式、債券、投資信託など
保険会社	生命保険、医療保険、損害保険など
その他	

金融機関のタイプ

	特徴
店舗型	店舗に訪問して相談が可能 手数料がインターネット型よりは高い
インターネット型	いつでもどこからでもアクセス可能 相談やアドバイスが受けられない 幅広い商品ラインナップ 手数料の安い商品が多い

各金融機関の特徴

- ▶ メガバンク
- ▶ 大手証券会社
- ▶ インターネット証券
- ▶ その他

資産運用アドバイザー

①銀行・証券会社・
保険会社などの担当者

②独立系
金融商品仲介業者

4つの立場

③独立系
投資助言業者

④その他
独立系

口座開設手続き

▶ 準備するもの

- 本人確認書類（身分証明書）
- マイナンバー（通知カード／マイナンバーカード）

▶ 注意点

- 納税方法の選択（特定口座の種類）
- NISA口座の選択

特定口座の種類

	特徴
特定口座 (源泉徴収あり)	確定申告は原則不要 初心者におススメ
特定口座 (源泉徴収なし)	金融機関が年間損益を計算 自分で確定申告を行う

※ 特定口座を開設しない場合（一般口座）

* 自分で年間損益を計算し確定申告を行う

NISA（少額投資非課税制度）

NISA口座は1人1口座しか開設できない

（金融機関を1つだけ選ぶ必要がある）

	非課税 期間	買付 可能額	投資方法	対象商品
一般NISA	5年	年間 120万円	積立／一括	株式/投資信託
つみたて NISA	20年	年間 40万円	積立のみ	特定の投資信託 のみ

個人ワーク（口座開設）

- 実際に口座開設の手続きを進めてみましょう！

- 口座保有者は以下の内容を確認してみましょう！
 - 口座の種類は特定口座（源泉徴収あり）ですか？
 - NISAは開設してありますか？